

●●● 堆肥センター協議会の活動状況 ●●●

「静岡県良質たい肥生産流通促進協議会」の活動について

静岡県農林水産部家畜衛生室 杉山源吾

1. はじめに

消費型社会から循環型社会への転換が叫ばれている中で、畜産サイドにおいても、平成11年に法的な整備がなされ、家畜排せつ物の適正な管理と有機質資源としての堆肥を「土づくり」に有効利用し、地域と調和した資源循環型畜産経営を推進することが求められています。

そこで、静岡県における畜産堆肥の生産量を推計してみると、平成12年度の家畜飼養頭羽数から約691千トンとなり、県内の農作物作付面積に施肥基準どおり施用したと仮定した場合、堆肥の必要量は1,259千トンとなり、堆肥供給率は約55%と試算されます。しかし、稲作においてはほとんど利用されていないことやお茶やみかんについては傾斜地が多いことからその利用も限られています。さらに、耕種農家の高齢化や労働力不足等により、施肥基準より少なくなっています。また、畜産地帯と堆肥の利用地域の乖離があることから、地域的なアンバランスが生じているのが実体であります。

このため、堆肥の流通利用の促進を図るため、昨年10月に共同堆肥化施設を持つ40のたい肥生産組合を構成員とする「静岡県良質たい肥生産流通促進協議会」を設立し、耕種サイドとの連携強化、良質堆肥の生産技術の向上、堆肥施用技術の普及等を進めているところであります。

そこで、今回は、発足後2年目を迎える当協議会の概要と平成12年度の活動実績及び13年度の事業計画についてご紹介します。

2. 協議会の概要

当協議会は、たい肥生産組合における良質堆肥の生産及び流通・利用の促進を図り、資源循環型農業の推進による地力の維持・増進及び農畜産業の安定的発展に寄与することを目的として、平成12年10月30日に設立されました。

当協議会では、上記目的を達成するため、次の事業を行うこととしています。

- (1)たい肥生産組合相互間の情報交換
- (2)たい肥生産組合の機能強化の推進
- (3)良質堆肥の生産技術の向上
- (4)堆肥の流通・利用の促進
- (5)たい肥生産組合の環境対策の推進
- (6)堆肥の施用技術等の普及
- (7)未利用有機質資源の堆肥化の推進

組織は、次の団体、機関を会員として構成しており、平成13年6月現在の会員数は66会員となっています。

- ・たい肥生産組合
- ・静岡県農業協同組合中央会
- ・静岡県経済農業協同組合連合会
- ・静岡県開拓農業協同組合連合会
- ・(社)静岡県配合飼料価格安定基金協会
- ・(社)静岡県畜産会
- ・農業試験場
- ・畜産試験場
- ・中小家畜試験場
- ・農林事務所(8事務所)
- ・農林水産部研究調整室
- ・農林水産部家畜衛生室

会長には、(社)静岡県畜産会常務理事が就任しており、事務局も県畜産会で受け持っています。

す。会員のうちたい肥生産組合は、補助事業等により共同堆肥化施設を持ち、堆肥の生産を行っている組合で、現在48組合が加入しています。

3. 協議会の活動内容

(1)平成12年度の活動実績は、設立総会以降の約5ヶ月間の取り組みとなりますが、畜産環境特別対策事業(堆肥センター機能強化推進事業)による助成と会費の徴収により、次のとおり実施しました。

ア 記念講演会

設立総会終了後、記念講演会として富士見工業株式会社 専務取締役本部長 山本健一先生を講師に「堆肥流通の現状と今後の見通しについて」と題して講演を行いました。

イ 静岡県畜産堆肥共励会及び畜産環境講演会

平成13年2月、静岡県農業会館において、畜産農家の良質堆肥生産技術の研鑽と耕種農家等消費者ニーズに合った堆肥生産に資するため、第2回となる静岡県畜産堆肥共励会を開催しました。(写真1)



写真1 畜産堆肥共励会の展示会場及び審査風景

今回は、酪農、肉牛、養豚、養鶏の4部門に合計59点の出品があり、5名の審査員(県中小家畜試験場、畜産試験場、農業試験場及び県畜産会、県畜産技術協会)により審査が行われ、最優秀賞には県知事賞が授与されました。(写真2)



写真2 畜産堆肥共励会褒賞授与式

堆肥共励会終了後、同会場において、堆肥の生産流通に関する優良事例として、本県から平成11、12年度にゆたかな畜産の里推進事業に参加した2事例（函南東部農業協同組合、磐田市良質堆肥生産組合）について発表をお願いしました。その後、引き続き、良質堆肥の生産・流通に関する講演会を行いました。講師は（財）畜産環境整備機構畜産環境技術研究所 研究開発部長 伊藤稔先生に「近年の畜産環境技術の進歩」と題して講演をいただきました。

ウ 畜産環境技術研修会

平成13年3月8・9・12日の3日間にわたり、県下3地区において、畜産環境保全技術の修得及び情報の収集等により、家畜排せつ物の適正な処理及び利用の促進を図ることを目的に、畜産環境技術研修会を開催しました。（写真3）



写真3 地区別に開催した畜産環境技術研修会

受講対象者は、畜産農家、耕種農家及び関係団体、市町村、県の担当者とし、3地区で延べ139名の参加がありました。

研修内容は、次のとおりで、堆肥化处理、浄化处理、脱臭処理及び堆肥利用に関する基本的な技術と現場で実践可能な技術について研修を行いました。(表1)

表1 研修内容

研修項目	研修内容及び講師
堆肥化处理技術	低コストで実践する堆肥化处理技術と施設整備 畜産試験場 環境飼料部 芹澤駿治主任研究員
浄化处理技術	低コストで実践する浄化处理技術と施設整備 中小家畜試験場 関 哲夫研究主幹
脱臭処理技術	低コストで実践する脱臭処理技術と施設整備 中小家畜試験場 関 哲夫研究主幹
堆肥利用技術	堆肥の成分と耕種サイドにおける堆肥利用実態 農業試験場 土壌肥料部 小杉 徹副主任

エ たい肥生産組合紹介冊子の作成・配布

平成12年度に実施した畜産堆肥共励会の成果と併せて、各たい肥生産組合の連絡先、堆肥化の方法、堆肥の主要成分と販売単価及び堆肥化施設の写真等を掲載した冊子を計300部作成し、会員及び耕種サイドを含む関係団体等へ配布しました。

(2)平成13年度の事業計画については、6月19日に開催した通常総会で承認を得て、昨年同様、堆肥センタ?機能強化推進事業による助成及び会費の徴収により、表2のとおり実施することになりました。

表2 平成13年度事業計画

ア	たい肥生産組合相互間の情報交換 ・全国堆肥肥センタ?協議会への参加、協力及び全国のたい肥生産組合の優良事例、良質たい肥化技術の紹介等 ・たい肥生産組合の運営に関する情報の収集、提供
イ	良質堆肥の生産技術の普及、啓発 ・耕種側の求める堆肥を生産するための技術研修会等の開催 ・堆肥品質共励会の開催
ウ	たい肥生産組合の環境対策の推進 ・環境対策を推進するための講演会等の開催 ・たい肥生産組合の環境美化に対する助成
エ	堆肥の流通、利用の促進 ・堆肥の成分分析及び散布機能強化等の推進に対する指導 ・たい肥生産組合紹介冊子の作成 ・堆肥施用土壌の分析及び適正施用の検討並びに普及推進
オ	たい肥生産組合の円滑な運営の推進 ・たい肥生産組合が抱えている運営上の問題点等の調査及び改善策の検討

特に今年度は、堆肥の流通・利用の促進を図るため、たい肥生産組合員及び耕種農家の堆肥施用土壌の分析を行い、適正施用技術について検討することとしています。

また、たい肥生産組合の環境美化(堆肥化施設周囲への花木の植栽、害虫駆除、悪臭対策、不要品の撤去等)に対する助成を行い、地域と調和した体制づくりを支援していくこととしています。

なお、今年度の畜産環境講演会については、通常総会終了後に、畜産経営を継続していく上で、大きな課題となっている悪臭について、生物系特定産業技術研究推進機構畜産工学研究部主任研究員 道宗直昭先生に「今後取り組むべき悪臭対策について」と題して講演をいただきました。

た。(写真4)



写真4 平成13年度畜産環境講演会

4. 今後の課題

当協議会の今後取り組むべき課題として、次のことが上げられます。

- (1) 生産堆肥の販路拡大対策
堆肥の広域流通のための体制づくりが必要です。
- (2) たい肥生産組合の散布機能強化対策
小規模たい肥生産組合の共同化による機能強化が必要です。
- (3) 堆肥生産コストの低減対策
価格競争による販売価格の低下が予想されます。
- (4) 生ゴミ等の一体的な堆肥化処理の推進
循環型社会への貢献により地域との連携を図ります。
- (5) 県協議会の組織体制の強化
地域協議会の設置と事業推進体制の強化が必要です。

5. おわりに

当協議会の設立に当たっては、全国的な取り組みの中で、行政指導型で組織体制づくりを進めてきましたが、今後、事業を進めていく上では、個々のたい肥生産組合の取り組みはもとより、関係団体、関係機関の積極的な参加が不可欠と考えています。

発足後2年目を迎える中で、当協議会に寄せられる期待は大きなものがあります。全国堆肥センター協議会をはじめ各都道府県協議会及び県内の関係組織との連携を強化しながら、今後の課題解決に向けた事業推進が図れるよう一致協力していきたいと思います。